

航空教室（女性限定）特別版 「Yes I Can！」



数十年前から懸念されていた航空機操縦士と航空技術者の不足がいよいよ深刻化し、国土交通省の旗振りの下、平成 26 年に航空機操縦士養成連絡協議会及び航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会が設立されました。その中の裾野拡大ワーキンググループの取組みの一環として、各航空会社や関係各団体の協力のもとで企画されたイベントがこの航空教室です。

昨年に続き今年の 3 月 20 日、この「Yes I Can！」が、新橋にある航空会館で開催され、何か情報が欲しい、現場の生の声が聞きたいという熱い思いを持った、全国から 70 人を超える 16 歳から 26 歳の女性たちが集まりました。

文・写真・阿部紀子

航空教室は、午前 10 時に始まり、まずは経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課 航空機部品・素材産業室長北廣雅之氏、国土交通省航空局運航安全課 乗員政策室長梅澤大輔氏からのご挨拶、次に講師として整備士と操縦士のあわせて 6 人が 15 分ずつ講演され、お昼をはさんで、製造技術者の 2 人、そして当協会の理事長の講話が続きました。

午後 2 時すぎからは、室内の配置換えを行ない、7 人ずつのグループの輪を講師の方々が一人ずつ回りながら直接参加者の質問に答えていくグループ・ディスカッションが、たっぷり 2 時間用意されていました。最後には全員揃っての撮影会と、まだ少しある残り時間ギリギリまで、個人でさらに講師を追いかけるとい、午後 5 時までてんこ盛りの一日となりました。

講演とグループ・ディスカッション、それに個人へのインタビューを合わせて、簡単に講師の方々をご紹介します。



経済産業省 北廣雅之氏



国土交通省 梅澤大輔氏

全日本空輸（株）整備センター
業務推進部 企画チーム（一等航空整備士）
町 美緒（まちみお）さん

この会社に 17 年間勤めておりました、格納庫でドック整備を行っていた頃は、これ以上分解できるのかと言うくらいまで分解する車検のような仕事をしていました。ここ 6 年ほどはデスクワークで、250 機の飛行機の整備計画をしたり、現在は会社と現場のパイプ役のような部署におりますので、整備体制全般を計画する仕事で、日々ミーティングに明け暮れています。

飛行機に乗ったこともありませんでしたが、大学生の時に羽田空港のレストランでアルバイトをしていて飛行機に興味を持ち、就職に至りました。乗った経験など無くても大丈夫です！

（阿部：さすがベテランで、またマルチに会社を語る口調からはさらにトップとしての活躍が期待されます。でも、整備士として現場に戻ることもありえると、まだ現場へのこだわりもお持ちでした。）

（株）JAL エンジニアリング
B737-800 ライン確認主任者（運航整備士、一等航空整備士）
林 佳澄（はやしかすみ）さん

子供の頃から時計を分解して組立てたり、もつれた糸をほどいたりするのが好きで、理系の高校、その後専門学校へ進み、就職へと至りましたが、特に航空機が好きというわけではありませんでした。

現在、航空機が到着し出発するまでの 10～15 分の間に機体内外の点検を行なうライン整備をしています。無事離陸を見送る時に責任とやりがいを感じます。会社に女性は各部署に 1 名以上いますが、現場の整備士としては羽田に 3 人、成田にはもう少しいる程度で、女性はまだまだ少ない状況です。

（阿部：とにかく、クールで受け応えがとても落ち着いている的確、ああ、だからこそ安心してこの人に機体を任せられるのだと感じました。）



真剣な表情の受講生のみなさん

朝日航洋（株）東日本航空支社
運航部（事業用操縦士 - 回転翼航空機）
内田 智穂子（うちだちほこ）さん

社内に女性のパイロットは一人で、一昨年からは機長として、送電線巡視、航空撮影、大学等の実験フライトなどを行っていますが、今後は大型機にも乗って、人命救助もやりたいです。ヘリは低空も飛べて、狭い所にも着陸でき小回りがきくのが良いところ。他にもドクターヘリ、報道取材、防災、物資輸送など様々な仕事があり、次へ次へと成長していてやりがいを感じます。

自分一人で何もかもやらなければならないことも多く、緊張でお腹が痛くなることもあります。希望が叶い、これからもこの仕事を続けて行けるのは本当に幸せです。

（阿部：力も勇気も必要で、タフなのが小型機の仕事。「AS350 が愛機」「仕事を愛している」と笑顔で言い切る彼女がまぶしく見えました。）

エクセル航空（株）整備部管理課（二等航空整備士 - 回転翼航空機）
宮崎 千寿路（みやざき ちひろ）さん

珍しい仕事をしたくてこの業界に入りました。今回ぜひ皆さんに興味持っていただけたらと思います。浦安ヘリポートで、整備関係書類、車両の点検、安全確保、TCD、SB…、装備品管理、部品管理などの整備管理の仕事をしています。社内の整備部の男女比は 15：1（女性 2 人）で、整備士としては私 1 人ですが、女性は狭いところ、細かいところの作業は有利であると思います。そして、ヘリが飛び立つとき、責任とやりがいを感じます。まだまだ女性の志望者の少ない職種なので、同世代の女性が入社していただけると嬉しいです。

（阿部：整備服のつなぎを着ていなかったら、整備士に見えない少女のような方ですが、自分にできることは何でも積極的に行なうというバイタリティーに溢れていました。）

日本航空（株）運航乗務員
副操縦士（定期運送用操縦士 - 飛行機）
長谷川 千春（はせがわちはる）さん

航空大学卒業後に入社、B747 に乗務し、7 年間に 15 か国を飛びました。そして 6 年間休職し出産・育児に専念、その後復帰と B777 の限定取得を果たしました。家に帰ると子ザルのような 3 人の子供がいて毎日バタバタです。ですから、外へ出るとホッと一息つけるし、勉強も外でならできます。休職して知識が白紙になっていましたが、身に付いた

技術は残っているのが意外なほどでした。

20年前は身長、握力、肺活量の身体検査基準がありました。今はなく、また大型機は機械的な信号に変えて力を伝えるので腕力も必要なく、女性ならではの苦労はあまり感じません。この仕事の大変なことは、月60時間、アメリカ西海岸なら1フライトで9～10時間を二人で操縦するので、やはり疲労もストレスもあることだと思います。

(阿部：産前産後そして育児の修羅場を乗り越えつつ、すでに機長の風格漂う方ですが、家と仕事を両立させ、今後どこまで上り詰めるのか期待したいです。)

**全日本空輸 (株) B737 部
副操縦士 (定期運送用操縦士 - 飛行機)
白井 絵里 (うすいえり) さん**

小学生のころ、「魔女の宅急便」の主人公キキに憧れました。大学卒業後、入社し自社養成コースへ。女性はパイロット2000人中20人弱で、1%にも満たないですが、名前をすぐに覚えてもらえますし、大変だと思うことはありません。現在搭乗している中型のB737が扱いやすく好きな機体です。

入社試験対策では過去問題を自分なりによく検討し、不合格の要素を排除していき、周到に準備しました。たとえば、身体検査の基準に合わないものがないか事前検査し、本番前には、睡眠や薬の服用に注意し、イヤホンを使用しない、電車で読書をしななどを徹底しましたし、握力(会社基準)もジムで鍛えました。

(阿部：超難関を突破し、闊達な彼女はどこへ行っても気後れすることなく、元気に飛んで行くのだろうと思えました。)

**富士重工業 (株) (現：(株) SUBARU) 航空宇宙カンパニー
航空機設計部 大型機設計 係長
荒川 幸恵 (あらかわ さちえ) さん**

図面を引いたり、係長として日ごとの指示を出し回していくのが日々の仕事です。部下に教える立場でもありますが、質問してもらう方が教えやすいです。女性に対しては、ちょっと厳し過ぎないか心配してしまうこともあります。若い皆さんもどんどん質問して上手に教えてもらえるようにすると思います。

(阿部：講演では主翼構造などまさに工学系のハードな仕事のお話をされていたが、物静かな印象で「厳しすぎるかも…」というのは意外でしたが、本当に頼もしいです。)

**川崎重工業 (株) 航空宇宙カンパニー 技術本部
民間航空機設計部 B787 設計一課 主事補
ト部 真理子 (うらべまりこ) さん**

小さい頃から飛行機が好きで、月間スケジュールを読んでいました。また算数や宇宙が好きだったので、理工系の大学へ進みました。現在、B787の前部胴体や部品の強度計算をしたり、コストダウンを考えたり、計算はいつまでも果てません。

(阿部：まず目についたのが彼女の指先。この日のために今まで乗ったことのある航空会社のマークをネイルに施しておられたのです。このユニークなネイルに、講師陣は「へー、ステキ!」「手書きなの?」「写真を見せたの?」と皆さん興味津々でありました。



ネイルアートにも航空魂!

**一般社団法人 日本女性航空協会
理事長 (事業用操縦士 - 飛行機、滑空機 - 教官)
鐘尾 みや子 (かなおみやこ) さん**

当協会に古くから保存されている貴重な写真などの資料を見せながら、当協会と女性の航空の歴史、男女雇用機会均等法施行以降の女性パイロットたち、プロのパイロットになりたくてもなれなかった時代の鐘尾理事長の経験などを30分ほどで紹介されました。そして「結婚してからの出産・子育ては一生続くわけではありません。女性が働くことは当然のこと。ぜひ、迷わず航空界を目指してほしいと思います。」と参加者に呼びかけました。

(阿部：このような女性の航空に関する講話などはなかなかお目にかかれませんが、若い人たちはもちろん、現役の技術者はこれら歴史に触れ、先人の尽力を思い、自分も歴史を積み上げる一人であると考えて、今後の糧にさせていただけたらと切に願います。)

そして、参加者の方々にも感想を伺いました。

●整備士希望の Kさんは現在高等専門学校2年生。「以前、テレビドラマ『グッドラック』を見て整備士に憧れ、大手航空会社のドック整備の仕事を希望しています。今から、無線や車の免許の取得、そして TOEIC 受験とできる限りの準備をしていきたい」と話してくださいました。

●Sさんは大学3年生で、以前よりここにある航空図書館に通う空好き。「最初、女性だからとCAを目指していましたが、本当は戦闘機パイロットになりたいと思っていました。今回、女性もヘリコプター・パイロットにもなれること、日本女性航空協会のことや古くから日本でも女性が飛んでいたことなどを初めて知りました」

●日本航空学園の2年生として在籍するIさんも、CAからパイロットへと希望変更して、今の学校へ進んだそうです。「1年生の半年間をアメリカで過ごしてみて、アメリカの航空会社のパイロットになりたいと考えています。今回女性ならではの苦労があまりないという話を聞き、とても安心できました」

●高校1年のWさんは、「震災での自衛隊の活躍を見て、自分も人のために役立つ仕事をしたいと思い、ヘリコプター・パイロットになりたいと考えていました。講師一人ひとり 仕事は違うけれど、皆さん熱い思いがあって、それを生で感じ、ぜひ私も空を目指したいと強く思いました」



他にも、昨年に続き2回目の参加という人もいて、本当に皆さん熱心に真剣に講師を見つけていました。40年近く前、インターネットもない時代にこんな催しがあったら、私も飛びついていたら違いありません。

参加してみてわかるのは、女性が航空技術者とし

ての職業を選択するのは、今も男性の100分の1に満たないということです。特に小型飛行機やヘリコプター、整備士、産業技術者については、知らないの方が圧倒的に多く、今後どのように認知度を上げていくのか、私たちのさらなる努力と工夫が必要でしょう。

この日のお昼時、講師たちとお弁当を食べながら、たわいもないおしゃべりが始まりました。普段居合わせることのない航空のスペシャリストが全員女性であり、仕事の話をするも、むくみや日焼け、トイレ、そして匂いの話から「空調システムは?」「循環するだけ!？」などと、男性とはまずしないであろう話題がポンポン飛び出し、大いに盛り上がりました。同席した私は肩ひじ張らずに済み、不思議なほど自然な居心地の良さを感じたのです。

どんな仕事においても、マイノリティーが増えることで、既存の仕組みに囚われることなく、新しい概念や活力が生まれ、この不穏な世の中を変えていく力になり得るのだと思います。そんな力を秘めた女性たちが、無理することなく、自分らしく健康に息長く活躍できる社会こそが理想ではないでしょうか。

